

飼料作物

講師名	山口 直己	実務経験等	農業改良普及センター・農業研究センターでの普及指導員・専門研究員としての勤務経験を活かし、家畜を正しく飼養し、健康を維持しながら生産性を向上させるための知識を習得するための講義を担当している。
-----	-------	-------	--

科目区分	学科・経営科	必修・選択 (必修、自由)区分	履修 学年	開講 学期	標準 時間	単位数
畜産学科・専門科目	畜産・共通	必修	1	通年	45	3
使用教科書・副教材	「目で見える 牧草と草地(デーリマン社)」					
授業の目的	自給粗飼料の増産を図るため、飼料作物の種類と栽培手法、草地の管理手法、飼料作物の利用方法等に係る専門知識を習得する。					
授業の到達目標	草地の管理手法を理解し、牧草収量を確保しながら植生を維持できるようになる。また、飼料用とうもろこしの栽培・調製手法を理解し、高品質なサイレージを生産できるようになる。					

月日	学習項目	学 習 事 項	時間	授業 形式	備 考 (提出物等)
4月20日	1 草地農業と飼料作物学	草地農業とその歴史・意義について理解を深める。	2	講義	
5月6日	2 飼料作物の種類(1)	草地・草類の区分等について理解を深める。	2	講義	
5月13日	3 飼料作物の栽培(1)	主な長大飼料作物の種類と栽培について理解を深める。	2	講義	
5月17日	4 飼料作物の栽培(2)	実習を通じ飼料用トウモロコシの早晩性、除草剤処理等について理解を深める。	4	実習	
6月2日	5 飼料作物の種類(2)	岩手県に適する寒地型牧草・野草の種類と特徴について理解を深める。	2	講義	
6月3日	6 飼料作物の栽培(3)	牧草のは種と定着、混播とマメ科牧草の窒素固定について理解を深める。	2	講義	
6月10日	7 飼料作物の栽培(4)	牧草の収量調査の手法や草類の見分け方について理解を深める。	2	講義	
6月16日	8 飼料作物の栽培(5)	牧草の刈取り・再生・分けつについて理解を深める。	2	講義	
7月8日	9 飼料作物の栽培(6)	草地の造成および更新方法について理解を深める。	2	講義	
8月26日	10 飼料作物の栽培(7)	草地の造成・更新時における草地管理について理解を深める。	2	講義	
9月7日	11 草地の管理手法(1)	草地生産性の支配要因と衰退要因、刈取に係る留意点について理解を深める。	2	講義	
9月14日	12 飼料作物の栽培(8)	飼料用トウモロコシの収量調査を通じて早晩性、除草剤処理について理解を深める。	4	実習	レポート
10月6日	13 草地の管理手法(2)	草地の施肥管理、雑草防除の基本的考え方について理解を深める。	2	講義	
10月19日	14 草地の管理手法(3)	放牧導入と放牧地の利用管理について理解を深める。	2	講義	
11月11日	15 飼料作物の利用(1)	乾草の調製について理解を深める。	2	講義	
11月15日	16 飼料作物の利用(2)	乾草の貯蔵・品質評価について理解を深める。	2	講義	
12月14日	17 飼料作物の利用(3)	サイレージ調製の要点について理解を深める。	2	講義	
12月21日	18 飼料作物の利用(4)	サイレージ調製の作業機械と作業体系、調製中の養分損失について理解を深める。	2	講義	
1月11日	19 飼料作物の利用(5)	サイレージの品質評価について理解を深める。	2	講義	
1月25日	20 飼料作物の利用(6)	サイレージの給与における留意点について理解を深める。	2	講義	
2月15日	21 飼料作物の利用(7)	飼料用米の生産における留意点について理解を深める。	2	講義	
合計			46	時間	

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

筆記試験の得点、受講態度、提出物の内容、出席状況により評価する。
評価割合:筆記試験:70%、平常点:30%(学習態度、出席状況、提出物)

履修に当たっての留意点等

授業は、使用教科書や他の参考資料を基に独自に教材を作成し配布するとともに、補足的に板書をして行う。
なお、授業形態は講義中心に行うが適宜ほ場や実験棟での演習・実習を加える。(参考図書:「草地・飼料作物学(東京農業大学出版会)」、「牧草・飼料作物生産利用指針(岩手県)」ほか)